

奄美の風だより

VOL. 28(春号:7) 2007. 4. 10 ANC:New Letter

発行・編集:奄美自然体験活動推進協議会



↑サシバ



↑カラスにモビングされるサシバ

ミーニシに乗って秋の訪れとともに渡ってきたサシバ。今はいたるところで見ることができ、サシバを見ない日はありません。奄美ではあまり珍しいと感ずることが出来ませんが、実はこのサシバ、環境省レッドリストの絶滅危惧Ⅱ類に指定されていて、絶滅の危機にある鳥なのです。

ピックイーと鳴きながら上空を飛翔していたり、電柱に止まっていたり。渡ってきた当初は3、4羽で一緒に飛んでいる姿を見る事が出来ました。

サシバを簡単に見られると分かってとても興奮し、毎年の光景だよと言われても、カメラをかまえサシバを追いかける衝動を止める事はできず、よく走っていました。

しかし、暖かい季節に変わり新緑が芽生え、山の姿も変わり始めるとサシバは本土に渡っていきます。いつもあたりまえのように聞いていた声、姿を見れなくなるのはとても寂しく感じます。

でも、それと同時に恋の季節が訪れ、美しいさえずりを聞かせてくれる鳥たちが現れます。透き通った美しい声のアカヒゲ、まるで尺八のような声をだすズアカアオバト。そして、夏鳥が到来します。また私はカメラをかまえ、走る衝動を止める事ができなくなりそうです。季節の変化に喜びを覚えつつも、4月は年度始めで、何かと移り変わりが激しく大変な時期にもなりますが、耳を澄ませてさえずりを聞いて、春の訪れにどっぴりと浸ってみませんか。



↑アカヒゲ

奄美野生生物保護センター

“阿部 慎太郎” 自然保護官の後任に

“鑪 雅哉 (たたら まさや)” 自然保護官が着任しました。

～ 鑪さんより自己紹介 ～

みなさま、こんにちは。環境省奄美自然保護官事務所（奄美野生生物保護センター）に自然保護官として勤務している鑪雅哉です。6年以上の長きにわたり奄美野生生物保護センターの大將だった阿部慎太郎は、環境省那覇自然環境事務所（奄美の親事務所）に栄転し、その後を引き継いで4月に着任しました。前任地は西表野生生物保護センターで6年間、その前は対馬野生生物保護センターで4年間勤務していた生粋の「島レンジャー」です。



2人の子供は、映画は飛行機に乗らないと見に行けないと思っていますし、鉄道というものをほとんど見たことがありません。名瀬には映画館があったのでとても喜んでいます。

環境省職員で野生生物保護センターを3カ所連続というのは初の快挙？と思います。これまではツシマヤマネコやイリオモテヤマネコなどの希少種の保護事業が主な仕事でした。奄美ではアマミノクロウサギやオオトラツグミ等の希少種保護もさることながら、外来生物であるマングースの防除対策が最も重要な任務であると考えています。平成17年度から実施しているマングース防除事業では10年間で奄美大島からマングースを根絶させる目標を立て、現在奄美マングースバスターズの皆さんとともに鋭意計画を実行中です。

そのほかにも、奄美群島の国立公園指定や世界遺産登録に向けた準備作業など、やりがいのある大きな仕事が目白押しです。とは言っても、このような自然保護の仕事は、一人では何もできないと言っても過言ではありません。みなさまの深いご理解と大きな支えがあって初めてなし得るものです。幸い、身近なところでは奄美野生生物保護センタースタッフやバスターズの皆さんに助けられています。島の内外から多くの皆様のご協力を得ながら仕事を進めていきたいと思っています。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

★ 奄美野生生物保護センタースタッフによる野生の生き物情報 ★

～ 鳥たちの繁殖について ～

暖かい季節になりました。常緑広葉樹の多い奄美の森は、いま黄緑色のモコモコとした新緑におおわれていてとてもきれいです。あたりを飛び回る虫の数が増え、林道上ではカエルもたくさん見られるようになりました。鳥たちのさえずりもあちこちから聞こえてきてたいへんにぎやかです。



センターの窓から見える山の風景。新緑の美しい季節です。

さて、春は鳥たちにとって繁殖の季節です。繁殖とは、つがい相手を見つけ、巣を作り、卵を産み、卵を温めてヒナをかえし、ヒナに餌を与えたり外敵

から守ったりして無事巣立たせる、そういった一連の行動のことです。春になると、自分自身が食べたりヒナに与えたりする虫などの餌の量が増えます。多くのエネルギーが必要となる繁殖を行うには、餌の量が多くなるこの季節が適しているのです。

動物のオスとメスのつがい関係の持ち方のことを、「配偶様式」といったりします。では、鳥たちはどのような配偶様式を持っているのでしょうか。世界には 9,000 種ほどの鳥がいると言われていますが、このうち 90%以上の種は、1羽のオスと1羽のメスがつがいを形成して繁殖を行う「一夫一妻」と呼ばれる配偶様式を持っています。それ以外にも、1羽のオスが複数のメスとつがい関係を持つ「一夫多妻」や、反対に1羽のメスが複数のオスとつがいになる「一妻多夫」という繁殖のやり方を持つ鳥も少数ながら見られます。

それでは、奄美で見られる鳥を中心に、鳥たちの配偶様式について少し見てみましょう。まず私たちが調査をしている、奄美にしかない希少種オオトラツグミ。この鳥の繁殖のやり方を調べたいと思い、がんばって巣を探しているのですが、いまのところ実際に繁殖している最中の巣は見つけることができていません。オオトラツグミの繁殖についてはまだまだわからないことばかりです。しかし、これまでに得られている情報や、近縁種のトラツグミの繁殖から推測すると、オオトラツグミの繁殖のやり方は「一夫一妻」だと考えられます。オオトラツグミ以外にも、美しい声でさえずるアカヒゲや、夏鳥として渡ってくる尾の長いサンコウチョウ、真っ赤なアカショウビンなど、多くの鳥は「一夫一妻」の配偶様式を持っています。なお、「一夫一妻」といっても実際にはオスメスそれぞれがつがい以外の相手と浮気をする場合があることが多くの研究で知られています。鳥の世界も(人間と同じく?) なかなかドロドロとしたもののようです。

一方、農耕地などでよく見られるセッカなどは、オスがたくさんの巣を作り、それぞれの巣にメスを呼んで繁殖をする「一夫多妻」と呼ばれる配偶様式を持っています。ウグイスも、奄美大島や徳之島では繁殖が確認されていませんが、1羽のオスが複数のメスとつ

がいになる「一夫多妻」の鳥です。これらの鳥では、オスは基本的に子育てをせず、メスに任せっぱなしにして自分は別のメスを求めてずっとさえずっています。

サトウキビ畑などによくいるミフウズラや、奄美ではめったに見ることはありませんが、田んぼなどに現れることのあるタマシギは逆に「一妻多夫」の配偶様式を持っています。メスはオスと交尾し卵を産むとその卵をオスに預け、別のオスを探しに行きます。メスはそうやって次から次へとオスに卵を預けて育ててもらい、自分では子育てをしないのです。

さらにおもしろい繁殖のやり方をするのはルリカケスです。ルリカケスも「一夫一妻」なのですが、両親であるオスとメス以外にも、子育てを手伝う個体が巣に出入りするのは、このような、両親以外の個体が子育ての手伝いをするような繁殖のやり方のことを「協同繁殖」、お手伝いをする個体のことを「ヘルパー」と呼びます。協同繁殖をする鳥類のヘルパーの多くは、同じ両親から前年かそれ以前に生まれた子供であることが知られています。つまり、ヘルパーは弟や妹の世話をするためにお父さんとお母さんの子育てを手伝っている、ということになります。ただしルリカケスのヘルパーがどのような関係の個体であるのかについてはまだよくわかっていません。



森のなかで見かけたルリカケスの雛。まだ巣立ったばかりのようです。

その他にも、特定のつがい関係が見られず複数のオスとメスが繁殖を行う「多夫多妻」あるいは「乱婚」と呼ばれる配偶様式もあります。奄美にはいませんが、本州の高山帯に住むイワヒバリや、ヨーロッパカヤクグリなどはこのような配偶様式を持っています。

このように、ひとくちに「鳥の繁殖」といってもそのやり方は種によってさまざまです。どの鳥がどのような配偶様式を持っているかを知るには、実際にその鳥の巣を見つけ観察する必要があります。そして、その鳥がどのような繁殖のやり方をしているか、繁殖中の行動圏の広さはどれくらいなのか、ヒナにやる餌がなにで、それをどこで捕ってくるのかなど、鳥の繁殖について調べることは、学問的にもおもしろいだけでなく、その鳥を保護していくうえで重要な基礎資料になると思います。

ところで、仲のよい人間の夫婦のことを「オシドリ夫婦」といったりしますが、実際はどうなのでしょう。オシドリの夫婦は、実はそれほど仲がよくないそうです。オスはつがい相手のメスが卵を産むと、後はよろしくとばかりに巣を離れ二度と帰ってこないのです。オシドリのような夫婦をめざすとたいへんなことになるので見習わない方が賢明です。

ともかく、1羽のオスと1羽のメスが協力して子育てをする多くの鳥の様子を見て、人間はなんとなく鳥たちのつがいを仲のよいものと考えがちですが、実際には鳥の繁殖のやり方は多様で、オスとメスは虚々実々の駆け引きをしながら生きているのです。

(アクティグレングジャー 水田 拓)

奄美大島生き物情報(寄せられた情報の一部)

場所が非公開のもの

アマミセイシカ 日時：07.3.11 15:00 状況：満開に咲いていた	オットンガエル 日時：07.3.11 20:10 状況：林道の側溝の中にいた
アマミエビネ 日時：07.3.26 10:20 状況：花が咲いていた	イシカワガエル 日時：07.3.5 22:30 状況：沢のそばの岩の上にあった
オキナワチドリ 日時：07.3.31 15:00 状況：林の中で群生していた	

ルリタテハ
日時：07.3.8 14:30
発見場所：大和村
状況：沢の周りにたくさん飛んでいた

ハマダイコン
日時：07.3.31 14:30
発見場所：笠利・あやまる岬
状況：浜に咲いていた

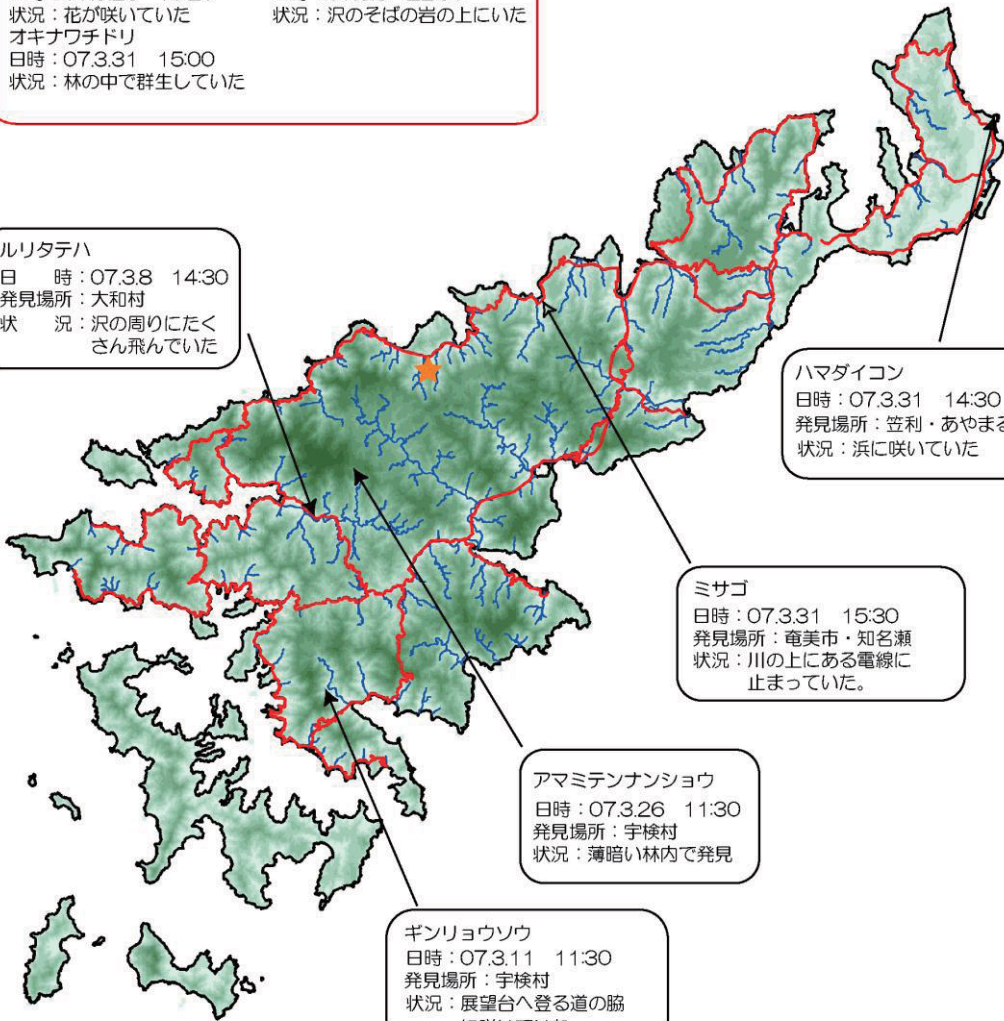
ミサゴ
日時：07.3.31 15:30
発見場所：奄美市・知名瀬
状況：川の上にある電線に止まっていた。

アマミテンナンショウ
日時：07.3.26 11:30
発見場所：宇検村
状況：薄暗い林内で発見

ギンリョウソウ
日時：07.3.11 11:30
発見場所：宇検村
状況：展望台へ登る道の脇に咲いていた

★ センター周辺の情報

ヒレンジャク
日時：07.3.31 14:30
状況：5羽ほどの群れで木の実をついばんでいた
チュウサギ
日時：07.3.28 9:50
状況：5羽ほど、センター前の池にきた



0 4.5 9 18 km



春に見られる野生生物

トラツグミ[スズメ目・ヒタキ科 全長29,5cm 冬鳥]

体の上面は黄かっ色の地に黒色の横斑や三日月斑があり、下面は白地に黒色と黄色の三日月斑がある。雌雄同色。奄美大島では冬季に農耕地や草地などで少数見られる。留鳥の固有種オオトラツグミと姿が似ているが、オオトラツグミは主に原生林内で生息し、昼間農耕地などの開けた場所へはあまり現れない。

鳴き声：ヒーイー、ヒョー、など

生息時期：12月～3月



アマミアオガエル[アオガエル科 全長45～77mm]

平野から山地の森林に生息し、背の低い植物の葉の上にいることが多い。このカエルの卵はメレンゲ状の泡に包まれており、水辺の草や石の下、落ち葉の下などに産みつけてある。おとまじゃくしはふ化すると、自力もしくは雨水によって、水場へ移動する。

鳴き声：キャラララ・キャラララ

繁殖期：4月～7月



アカボシタツナミソウ[シソ科]

低地～山地の路傍や林縁に生える多年草本。葉の表面には短毛を散生、裏面の特に脈状には短毛があって、全面には赤褐色の腺点が密にある。花冠は淡紫色。琉球の固有種。和名の「立浪草」は、同じ向きに咲いている花を押し寄せる波頭に見立てたものという。

分布：奄美大島～沖縄諸島固有



リュウキュウシロスマシ[スミレ科]

日当たりのよいやや粘土質の路傍に生える多年生草本。地上にはホフク茎がなく、葉は根生る。花は根生し、花柄は葉よりも著しく長く、葉よりずっと上で花が咲く。花弁は白色であるが変化が多い。

分布：上甌島以南



～番外編～

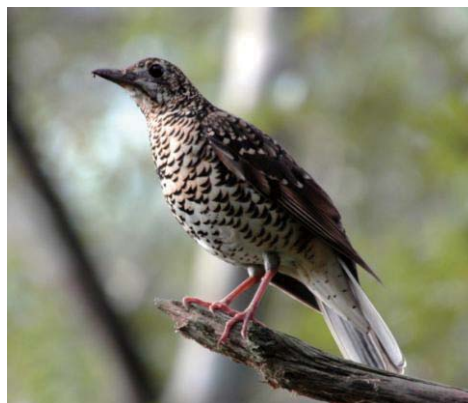
オオトラツグミ[スズメ目・ヒタキ科 全長30cm]

留鳥。絶滅危惧Ⅱ類。原生的な照葉樹林で局所にすむ。冬鳥のトラツグミと似ているが、さえずりが全く異なる。

鳴き声：キョロロン、ヨオーヒィヨオなど

生息時期：1月～12月

3月17日に奄美野鳥の会主催の、オオトラツグミさえずり一斉調査がありました。中央林道では確認個体数が過去最高になり、生息環境が安定してきた結果のようです。オオトラツグミは、奄美固有の貴重な鳥。これからも大事にしていきたいですね。



参考文献：琉球弧 野山の花(南方新社 監修/大野照好 写真と文/片野田 逸朗 発行日/1999.6.6)
図鑑 奄美の野鳥(奄美野鳥の会 発行日/1997.3)
山溪ハンディ図鑑9 日本のカエル+サンショウウオ類(山と溪谷社 写真/松橋 利光
解説/奥山 風太郎 発行日/2002.4.1)

編集後記

奄美に来たばかりの私にとって、このところの気候は春というより初夏では！？とってしまう暖かさです。子供たちは半袖で遊んでいます。みなさんも梅雨に入る前に、晴れた日は半袖になって、短い春の散策に出かけてみてはいかがでしょうか？

編集・発行：奄美自然体験活動推進協議会事務局

- 〒894-3192
鹿児島県大島郡大和村大和浜100
大和村役場 企画財政課
TEL：0997-57-2111
- (連絡・書類等送付先)
〒894-3104
鹿児島県大島郡大和村思勝字腰ノ畑551
奄美野生生物保護センター内
TEL：0997-55-8620
FAX：0997-55-8621